

H23健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会 フォローアップシート

◆達成度に関するアドバイス

・全ての項目で実績が計画値を下回っています。原因究明を徹底するとともに、速やかな改善行動を期待します。

◆成果に関するアドバイス

・樹高生長による樹冠回復が期待できるとはいえ、これほど樹冠が減少した林分で機械的に列状間伐を行うことは問題が多いと思慮します。こうした林分では、林況を十分に観察した上で、樹冠のある木の保残と周囲の妨害木の伐採により、将来木の枝の枯れ上がりを抑制する等の必要性を認識して下さい。

・作業道脇の谷側の木を全て伐採していますが、樹間が広がったり車両走行時の安全性を損なうことから、出来る限り保残することをイメージして下さい。

・河床よりも低位に暗渠を設置すると、暗渠は徐々に堆砂するとともに流木や枝条、葉などによって閉塞しやすくなります。止むを得ず作業道が河床を渡河する場合には、上流部に土砂止めを設けたり、作業道の路盤を下げない等の施工を心がけて下さい。

・現場の観察結果から土壌の回復が急務と思慮します。まずは土壌水分を回復して微生物による有機物（落葉落枝）の分解活動を促すことが求められますが、供給源となる斜面上方の木が過伐採の状況にあります。本来は、弱度の間伐を繰り返し、上方からの有機物の供給を期待すべきであったと思慮します。

・溪流の観察結果からは、沈降速度の遅い泥が堆積していることが確認されました。これは林分から流出した土壌であることの証左と理解し施業方針の立案に期待します。

◆効率性に関するアドバイス

・安易にスイングヤーダーによる列状間伐を選択せず、様々な観点から比較検討を行い、施業方針や施業内容を決定するようにして下さい。

◆妥当性に関するアドバイス

・森林の生長量とは太陽光を受ける緑（葉）の量に比例します。必要以上に樹冠が空くと森林のトータル生長量が低下し、最終的に森林所有者の損失となることを意識して下さい。

・提案型施業とは、利益還元が主目的ではなく、森林所有者に対して森林の現状、施業の内容、将来の姿を過不足無く、かつ正しく説明し提案した上で実施されるべきものと認識して下さい。

・尾根は緩く谷底へ行くに従い急勾配になるという自然の原則を無視して、最も急で崩壊しやすい中腹部を選んで作業道を開設しています。こうした難しい場所では、より山（自然条件）を読み込むことが必要です。

◆発展性に関するアドバイス

・事務所と現場が同じ基準で林況を理解できることが大切です。業界だけが持つ暗黙知があり、例えば魚の目利きのように、魚の善し悪しを目視だけで判断できるレベルにまで技術を向上することを期待します。

・様々な林況判断指標のうち、現場で最も判断しやすい判断指標として樹冠長の割合を推奨します。

・等間隔、通直等を理由に保残しても形状比の高い木は雪害の恐れが高いため、1本ずつ木を見て判断することの大切さを現場の作業員に対して十分に伝えてもらうことを期待します。

・日本で将来の木施業を実施する際には、雪害・獣害等の影響が懸念されます。日本で上手く行くためにはどうアレンジしなければならないのか、今後、実験し工夫を積み重ねられることを期待します。

・この地域の実生スギ（宝スギ）は強度もあり非常に良い品質であるため、是非とも苗木育成の継続を期待します。

◆総括に関するアドバイス

・様々な思考しプロジェクトを実践していることは理解できますが、実践内容の善し悪しを判断するためにも多くの優良事例を視察することが必要です。そして優良事例を模倣した取り組みの結果を踏まえ、この地域にあったやり方を進めて貰いたい。

◆フォローアップ委員会の開催状況

平成23年12月22日

日時：平成23年11月18日（金）
場所：高山市上宝町蔵柱地内
参加委員：三島 喜八郎 岐阜県森林組合連合会 代表理事副会長
篠田 成郎 岐阜大学総合情報メディアセンター 教授
湯浅 勲 日吉町森林組合理事兼参事
対象：飛騨高山・間伐材テクJV（飛騨高山森林組合／（有）愛宝産業／（有）FECカネマル）



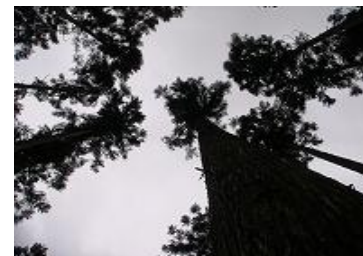
プロジェクトの概要説明



間伐展示林
（平成5年度設置）



雪害林分（施業前）



将来木施業試験地



排水処理方法（暗渠）
をフォローアップ



森林づくりのための
土壌回復手法を指導



施業方針に関する
質疑応答



急傾斜地に開設
された作業道



過伐採（列状間伐）との
指導を受けた施業地

H23健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会
委員長 三島 喜八郎